

都道府県名	福岡県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	芦屋町立芦屋中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	5	0	13	25
生徒数	148	158	167	0	473	

研究の概要

1. 研究主題

<p>「『確かな学力』の向上を図る教育活動の工夫改善」 ~ 課題の自己選択の場を重視した教科の授業と基礎学力の定着を支援する 学校・学年の取組の推進・充実を通して ~</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1～3年生	数学	（フロンティアスクールとしての指定「必修教科」のため）
1～3年生	英語	（フロンティアスクールとしての指定「必修教科」のため）
1～3年生	社会	（フロンティアスクールとしての指定「必修教科」のため）
1～3年生	理科	（フロンティアスクールとしての指定「必修教科」のため）

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「『確かな学力』の向上を図る教育活動の工夫改善」 ~ わかる授業を目指した授業改善と 一人一人の学びに応じた選択教科の推進・充実を通して ~</p> <p>仮説 「わかる授業」への工夫改善として、次の ~ を視点とした授業改善を推進するとともに、生徒一人一人の学びに応じた選択教科を設定し、その充実を図れば、生徒の『確かな学力』の向上を図ることができるであろう。 1 単位時間での指導の重点を明らかにし、生徒に学習のめあてを明示する。 個に応じた指導の充実を図るために、少人数指導やTTによる指導の充実を図る。 体験的な学習や問題解決的な学習の一層の工夫を図るとともに、その効果的な活用の方途を探る。</p> <p>研究内容・方法 日々の授業や選択教科において「わかる授業」への工夫改善を行う。 ・個別学習や繰り返し指導による基礎・基本の確実な定着。 ・体験的・問題解決的な学習を通じた思考力、判断力、表現力の育成。 ・指導と評価の一体化の充実を図り「わかる授業」の創造。 一人一人の学びに応じた発展的、補充的な学習教材の開発を行う。 ・効果的な学習教材の開発。 ・習熟度別学習等の効果的な運用。</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 「『確かな学力』の向上を図る教育活動の工夫改善」 ~ 課題の自己選択の場を重視した教科の授業と基礎学力の定着を支援する 学校・学年の取組の推進・充実を通して ~</p> <p>仮説 生徒の「確かな学力」向上のための教育活動として、次のような取組を推進、充実すれば、生徒の「自ら学び自ら考える力」と「基礎的・基本的な内容の確実な定着」を図ることができるであろう。</p> <p>(1) 個の学びに応じた「わかる授業」をめざす授業改善の取組として 各教科の学習において、教材や単元に応じて、習熟度や課題によるコース別の少人数指導を位置づけ、コース学習に関するきめ細かな説明を行う。 コース選択に際して、一人一人の生徒が自己の学びを適切に評価する場の設定を工夫する。 を踏まえて、生徒の自己選択のもと、少人数指導を展開する。</p> <p>(2) 基礎学力の定着を支援する学校・学年の取組として</p>
--------	--

	<p>学習内容の確実な定着を図るために、授業のポイントを押さえた「10分間学習」の時間を確保し、その内容の充実を図る。 計画的・継続的な家庭学習を推進し、生徒一人一人の自己教育力の向上を図る「自学ノート」を活用する。 夏季・冬季休業中における学習内容のさらなる定着を図るための「補充教室」を実施する。</p> <p>研究内容・方法 一年次の研究の更なる深化・充実。 日々の授業や選択教科において「わかる授業」への工夫改善を行う。 ・個別学習や繰り返し指導による基礎・基本の確実な定着。 ・体験的・問題解決的な学習を通じた思考力、判断力、表現力の育成。 ・指導と評価の一体化の充実を図り「わかる授業」の創造。 一人一人の学びに応じた発展的、補充的な学習教材の開発。 ・効果的な学習教材の開発。 ・習熟度別学習等の効果的な運用。 生徒が、自己の学びの状況を振り返る場を組み入れた授業設計と、その内容を充実させる工夫の在り方。 学習内容の確実な定着を図るための学校・学年の取組。 家庭との連携の充実の在り方。 学力実態調査の結果を活用した学習指導の在り方。</p>
--	---

平成16年度	<p>テーマ(仮) 「『確かな学力』の向上を図る教育活動の工夫改善」 ～自己の学びの定着を図る場を設定した学習活動と、家庭学習の充実を図る家庭との連携の推進・充実を通して～</p> <p>仮説 日々の学習活動において主体的に自己の学びを交流する場を設定し、家庭学習の充実を図るために家庭との連携を充実すれば、生徒の『確かな学力』の向上を図ることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法 一、二年次の研究の更なる深化・充実。 生徒が、自己の学びの状況を振り返る場と主体的に交流する場を学習過程に位置づけた授業の在り方。 家庭学習の充実を図るための家庭との連携の推進の在り方。 学力実態調査の結果を活用した学習指導の在り方。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制

研究組織において、各部会における内容の精選・統合を行い、4部会から3部会に変更した。

ア 各部会の内容

部 会	内 容
授業等工夫改善部会	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導における授業の提案・実施。 ・個別指導や繰り返し指導法等、指導方法の工夫改善の提案、実施。 ・体験的、問題解決的な学習の効果的な活用の在り方の提案、実施。
基礎学力定着部会	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習ノートの活用の導入と実施。 ・適切な家庭学習の教材の研究と選定。 ・継続的な家庭学習の啓発。 ・長期休業中の補充学習の立案、実施。
学力分析部会	<ul style="list-style-type: none"> ・学力実態調査の立案、実施。 ・調査結果の分析。 ・自己評価表の提案。

イ 組織図

```

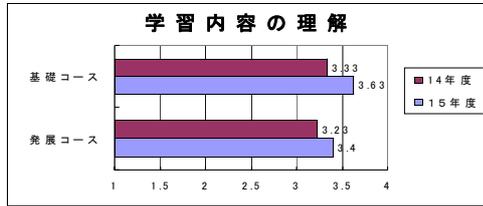
graph TD
    A[校長] --> B[教頭]
    B --> C[企画委員会]
    C --> D[職員会]
    C --> E[学年会]
    C --> F[研究推進委員会]
    F --> G[授業工夫改善部会]
    F --> H[家庭学習充実部会]
    F --> I[学力分析部会]
    J[フロンティア事業推進委員会] -.- G
    J -.- H
    J -.- I
  
```

平成15年度の研究成果及び今後の課題

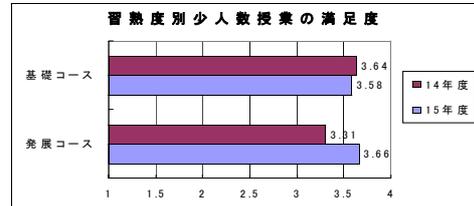
1. 研究成果

各教科ごとに、生徒の自己の学びに関する4段階評定尺度法による自己評価を実施し、データの平均値を比較したものを(資料1、2)に示す。

(資料1)



(資料2)



- (1) 基礎的・基本的な内容の確実な定着について
各教科の実践後の確認テストの結果、ほとんどの生徒が学習内容を理解していた。また、(資料1)からも、生徒自身が「授業内容がわかった」と感じ取っている様子が見える。
(資料2)からもわかるように、大部分の生徒が習熟度別のコース学習を肯定的にとらえており、学ぶ意欲を喚起する上でも効果が大きい。
- (2) 自ら学び、自ら考える力の向上について
習熟度別コース学習の中では、生徒同士による「教えあい学習」が行われ、学習意欲の向上と理解の深化といった主体的な学習活動が展開されていた。
生徒たちが自ら考えて、発想を広げる場面がしばしば見受けられた。
習熟度別コース学習を導入する際の自己選択する場の工夫に取り組んできた成果が、生徒自身の学習内容の理解や意欲の伸びにも現れている。また、コース選択の適切性に関する生徒の4段階評定尺度法による自己評価においても、基礎コース(3.69)、発展コース(3.48)というように高い数値を示した。

2. 今後の課題

- (1) 基礎的・基本的な内容の確実な定着について
時間の経過により、定着が薄れていることが、定期テスト等で明らかになった。今後、振り返り学習を取り入れた単元構成、教材開発、10分間学習、自学ノートの活用等において更なる工夫・充実に取り組む必要がある。
- (2) 自ら学び、自ら考える力の向上について
コース選択が、適切に行われていない生徒が一部みられた。今後更に、きめ細やかな自己選択する場の工夫・改善の取組を推進していく必要がある。
自ら学び考える力を育むためには、学ぶ目的を明らかにしたり、将来に対する展望を持ったりするなど、生徒自身の考え方や生き方に関わる指導も必要である。
授業の中に意識的に生徒自身の発言の場や交流の場を工夫する必要がある。
- (3) 家庭との連携の更なる充実
家庭学習の充実を図るため、家庭との連携を推進・充実する必要がある。

学力把握のための学校としての取組

生徒の学力把握のために、定期的な学力実態調査を実施(年2回)

- ・第1学年 11月、2月
- ・第2学年 11月、2月
- ・第3学年 6月、11月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開授業を平成15年6月と9月に開催し、実践交流会を10月に開催。
福岡県市町村教育委員会委員長・教育長会議(平成15年4月13日)において、実践発表。
北九州教育事務所地区学力向上推進協議会主催の「『確かな学力』を育む教育 フォーラム」(平成15年12月13日実施)において、フロンティアスクールとしての取組を発表(教員及び生徒の代表)。
平成15年4月の福岡県フロンティアティーチャー研修会において、前年度の取組についての概要を発表。
芦屋中学校公式ホームページにおいて、学力向上フロンティアスクールの研究概要の発信。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無